

## 【指導計画について】

1. 「特別の教育課程」による日本語指導を行う児童生徒の日本語の能力に応じた指導内容例
  
2. 指導計画の参考様式
  - 学校設置者に提出する指導計画例
    - 特別の教育課程編成・実施計画
  - 学校内で作成する指導計画
    - 個別の指導計画
      - 様式1（児童生徒に関する記録）
      - 様式2（指導に関する記録）
    - 記載例A）初期の前期段階・非漢字圏の小2



## 【参考資料】「特別の教育課程」による日本語指導を行う児童生徒の日本語の能力に応じた指導内容例

日本語の能力	全く分からない	日常会話ができるまで	在籍学級の授業に参加できるまで		
日本語の学習段階	初期の前期段階	初期の後期段階	教科につながる学習段階		
日本語指導の大目標	大目標①	大目標②	大目標③		
指導期間の目安	～6か月	～1年	～1年6か月	～2年	2年～

日本語指導の内容例  
(小学校低・中学年)

**サバイバル日本語**

→挨拶や体調を伝える言葉、教科名や身の回りの物の名前などを知って使えるようにする。

**日本語基礎**(文字・表記・語彙・文法)

→発音の練習、文字の習得、語彙を増やす、簡単な文型を学ぶ。 学校への適応や教科学習に参加するための基礎的な力をつける。

**日本語と教科の統合学習**(JSLカリキュラム)

→教科の学習内容を理解すること、日本語を学ぶことを組み合わせて学習する。

**教科の補習**→在籍学級での学習内容を、先行して学習したり、復習したりする。

(小学校高学年以上)

**サバイバル日本語**

**日本語基礎**(文字・表記・語彙・文法)

→漢字語彙、文法の学習は、技能別の学習に組み込んでい

**技能別日本語**(「聞く」「話す」「読む」「書く」活動)→まとまった内容を聞いたり話したりする力、目的を持って話し合いをする力や議論する力、文章を書いたり読み取る力などに焦点を当てた学習。

**日本語と教科の統合学習**(JSLカリキュラム)

→教科の学習内容を理解すること、日本語を学ぶことを組み合わせて学習する。

**教科の補習**→在籍学級での学習内容を、先行して学習したり、復習したりする。

**大目標①** 日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し、意思疎通を1～2語程度でできるようにする。  
日本の学校生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

**大目標②** 日本の学校生活や社会生活に関する理解を深め、日本語で学校生活に参加するために必要な、文字や文型など基礎的な日本語の力を育てる。  
日本の社会生活や学校生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

**大目標③** 教科等において、課題把握・情報収集・観察等の様々な活動に日本語で参加することができる。

(学校設置者に提出する指導計画 様式例)

特別の教育課程編成・実施計画(参考様式)

学校名	〇〇市立〇〇小学校
学校長	〇〇 〇〇
提出日	平成〇〇年 3月 〇〇日

No.	学年	児童生徒氏名	指導内容	指導時間	指導形態	指導者
				指導期間		
1	1	〇〇 〇〇 〇〇	初期 日常生活の日本語表現	週4時間	小集団指導 H26.4 ~	〇〇〇〇
2	2	〇〇〇 〇〇	初期 ひらがな・カタカナなど日本語基礎	週4時間	週2 小集団指導 週2 個別指導 H26.4 ~	〇〇〇〇
3	2	〇〇 〇〇 〇〇	教科につながる学習 読解指導、作文指導中心	週2時間	個別指導 H26.4 ~ H26.12	〇〇〇〇
年度途中で特別の教育課程による指導を終了した場合は、指導期間を記入しておく。						
4	4	〇〇 〇〇	初期 日常生活の日本語表現 日本語基礎	週6時間	〇〇小学校へ通級 (週4 小集団指導 週2 個別指導 ) H26.10 ~	〇〇〇〇 (〇〇小教諭)
編入など、年度途中で特別の教育課程による指導を開始した場合は、順次追記しておく。						
5	6	〇〇〇 〇〇 〇〇	教科につながる学習 社会科及び理科の先行授業	週2時間	巡回指導 (週2 小集団指導) H26.1 ~	〇〇〇〇 (〇〇小教諭)

【備考欄】

(学校内で作成する指導計画 様式例)

### 個別の指導計画(参考様式)

様式1(児童生徒に関する記録)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
在籍					H23	H24	H25		
フリガナ 児童生徒氏名 (通称)	(男・女)					国籍	ブラジル		
フリガナ 保護者氏名 (通称)						続柄	父		
生年月日	平成12年 5月 10日					出生地	ブラジル		
入国年月日	平成23年 3月 25日			学校受入年月日		平成23年 4月 1日			
家族構成	祖父、父、母、姉、本人、弟								
家庭内使用言語	祖父・弟とは日本語、 父・母・姉とはポルトガル語								
生育歴・学習歴	ブラジルで、小学校5年間を卒業。 平成23年 来日。小学校5年生に編入。 「特別の教育課程」による日本語指導を週に7時間。 平成25年 中学校入学。 「特別の教育課程」による日本語指導を週に4時間。								
学校内外での支援状	毎週土曜日2時間 ○○国際交流協会開催の日本語教室								
進路希望	進学(○○高校○○学科)								
その他	発達障害等の診断の有無 宗教上の配慮事項 等								

A) 個別の指導計画 (初期の前期段階・非漢字圏の小2)

様式2 (指導に関する記録)

フリガナ 児童名	( )年	作成者	作成日 更新日	年 月 日 年 月 日									
日本語の力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来日したばかりで、ほとんど日本語が分からない。</li> <li>・「こんにちは」「ありがとう」程度の挨拶語はいくつか知っている。</li> </ul>												
指導目標	<p>【初期の前期段階】</p> <p>①日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し、1語程度での意思疎通ができるようにする。②日本の学校生活において積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。</p>												
	<p>【初期の後期段階】</p> <p>①日本の学校生活や社会生活に関する理解を深め、日本語で学校生活に参加するために必要な、文字や文型などの基礎的な日本語の力を育てる。②日本の社会生活や学校生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。</p>												
指導計画													
「特別の教育課程」による日本語指導	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	段階	初期の前期段階		初期の後期段階									
	日本語の学習内容	① サバイバル日本語		*①②…と番号を付け、指導計画の欄で重複して記載しなくてもよいようにする。									
		② 日本語の基礎学習											
		③ 教科補習		④ 日本語と教科の統合学習									
	指導計画	<p>①挨拶・健康や安全に関する言葉・学校や社会生活に最低限必要な言葉。</p> <p>②ひらがなを4月に、カタカナを5月～7月に、小1程度の漢字30字を9月～3月に指導。3月までに、基本的な文型や語彙を使って簡単な会話を可能にし、学習した語彙・文字・文型を使って3～4語文の読み書きができるように指導する。</p> <p>③4・5月は算数の習得済み計算技能を保持させるとともに、未習事項を把握し補習する。</p> <p>④在籍学級の授業内容を簡単な日本語で指導しつつ重要な日本語表現を習得させる。</p>											
指導者	4月・5月は〇〇小学校に通級。6月以降は△□教諭が担当予定。												
指導場所	〇〇小学校 日本語学級	本校で取り出し指導					指導時数	週4時間					
上記以外の指導等	1月からは取り出し指導の時間を減らし、入り込みによる補助を行う予定。週1回、地域のボランティアが主催する日本語教室で学習している。												
指導内容方法に関する評価および学習状況の評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常会話は予想より早く指導目標に到達したが、ひらがなの習得は7月までかかった。カタカナは半分ほど習得したが、それもまだあやふやである。会話ができるようになってからは文字学習を嫌がり、漢字学習はほとんど進んでいない。会話が不十分うちに文字学習にもう少し時間を取ればよかった。</li> <li>・算数は未習事項が多く、繰り上がり繰り下がりが未だに不正確であるが、会話力の伸長とともに教科書の文が理解できるようになってきた。しかし、次学年では教科に関する言葉が一段と難しくなるので、日本語と教科の統合学習に時間をかけてほしい。</li> </ul>												